

大阪大学グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)の新設



海外交流

小泉潤二*

Founding of the Global Collaboration Center (GLOCOL) of Osaka University

Key Words : international cooperation, globalization, development



2007年4月、文部科学省から特別教育研究経費を受けて、大阪大学グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)が設立されました。これは、大阪大学と大阪外国語大学が2007年10月に統合するのに先立って、両大学の研究教育資源を有効に活かして国際研究と国際連携を推進し、国際教育を強化し、国際社会への貢献を実現することを目的として設立されたものです。国際協力と共生社会の構築に資する研究教育活動を、人文社会系、理工系、医歯薬系を問わずさまざまな分野で進めようとしています。2007年6月21日に、文部科学省村田審議官、大阪大学宮原総長、国連事務次長補・UNITAR(国連訓練調査研究所)事務局長のカルロス・ロペス氏らを迎え、大阪大学中之島センターで開所式が行われました。

GLOCOL(グローコル)という略称には三つの意味があります。まず、グローバルコラボレーションセンター Global Collaboration Center という名前の省略形がGLOCOLです。第二にGLOCOLという名は、このセンターがglocalなアプローチを取ることを示しています。glocalという語はglobalとlocalという語の組み合わせによる造語で、「グローバル

かつローカル」を意味しますが、GLOCOLの名はこの形容詞と響きを共有することによって、ローカルな視点からグローバルな問題に取り組もうという基本姿勢を表現しています。第三にGLOCOLという名は、「地域に生き世界に伸びる Live locally, grow globally」という大阪大学の標語に由来し、その精神を実現しようとすることを表しています。吹田キャンパスの千里門を入ったところ、微生物研究所の向いの「ウエストフロント」というガラス張りの新しい建物に、GLOCOLの本部があります。中之島センターの6階と3階にも中之島オフィスがあり、特任教員が研究や教育開発などの活動を行っていますが、今後、さらに他のキャンパスにも展開していく計画です。

私が初代のセンター長を2007年8月まで務めた後、栗本英世人間科学研究科教授に引き継ぎ、峯陽一准教授と草郷孝好准教授が副センター長として補佐する体制をとっています。辻毅一郎工学研究科名誉教授(現・大阪大学理事国際交流担当)が最初の特任教授で、現在は宮本和久薬学研究科名誉教授(元・薬学研究科長、前・大阪大学バンコクセンター長)が特任教授です。このほかに、教授1、准教授2、特任准教授2、特任講師1、特任助教3、特任研究員2という体制です。

これら現時点で15名の教員・研究員は、文化人類学、開発論、開発経済学、国際関係論、政治学、人間の安全保障論など、人文社会科学の研究者が中心です。しかし文理融合を目指すGLOCOLの特徴は、兼任教員の構成にあります。現在、人文社会系・理工系・医歯薬系のほぼすべての研究科を含む19の部局から、40名近くの教授・准教授に参加いただいています。この兼任教員(最終的には50数名を予定)が、部局とのリエゾンとして、またセンターのリソースパーソンとして、国際協力活動、国際開



*Junji KOIZUMI

1948年9月生

Ph. D., Anthropology, Stanford University,
スタンフォード大学大学院 人類学博士
課程修了 1981年現在・大阪大学 理事・副学長 人類学
博士 文化人類学・中南米研究

TEL : 06-6879-7002

FAX : 06-6879-7007

E-mail : koizumi@hq.osaka-u.ac.jp

発活動、国際連携活動、国際共同研究などによる国際貢献の要となります。



GLOCOL は、研究推進部門、教育開発部門、実践支援部門という三部門から構成されています。上の図に示されるように、「研究」「教育」「実践」を相互に緊密に結合し、フィードバックによる研究・教育・実践それぞれの発展を目指すところに特徴があります。国際協力に関する研究を基盤として教育と実践活動を行い、実践による経験やデータに基づいて研究や教育を進め、教育を通じてよりよい実践と研究人材の養成を進めていこうとしています。

GLOCOL のもう一つの特徴は、「連携のハブ」となることです。大阪大学の研究科、また研究所やセンターが、専門や部局を超えて国際貢献のために連携する際にそのハブとなることが、GLOCOL の目的の一つです。しかしそのような連携が学内にとどまる必要はありません。国内外の大学や国際機関、官公庁や市民団体との連携を進め、さまざまなネットワークの中核となることを目指しています。

そうした連携の中で、JICA（国際協力機構）と国立民族学博物館との協力関係を、GLOCOL は構想当初から重視してきました。国際研究の中心である大阪外国語大学と統合した新生大阪大学が、JICA および民博と連携協力して、北摂を国際協力の一大中心地として発展させていくことは、とりわけ意義深いことであると思われます。

JICA と大阪大学の間には、2007 年 2 月に連携協

力協定が締結されました。この協定は、研究推進や人材交流を含め、さまざまな連携事業を大阪大学と JICA の間で展開する道を開きました。既に開始しているものとして、JICA 地域別研修「持続的な人間の安全保障とキャパシティ・ディベロップメント」セミナー (Seminar on Sustainable Human Security and Capacity Development) があります。これは、タイ、ラオス、フィリピンなどアジア 8 か国から招いた研修員に対して、GLOCOL の理念の中心にある「人間の安全保障」について研修を行うものです。研修員は日本に滞在する 20 日ほどの間、連続講義やワークショップにより人間の安全保障の問題や能力開発について学ぶほか、神戸や水俣の現地に赴き阪神大震災や水俣病問題について直接知り、こうした人間の安全への脅威に対して地域がどのように取り組んできたかを含めて考えるプロセスが中心になります。研修員はこれに基づいてそれぞれの母国で行うアクション・リサーチの計画を作成し、現在 GLOCOL がサイバー上で行っている指導・助言のもとにそれぞれの国で計画を実施に移しているところです。2008 年の 3 月には、タイのバンコクに全員が再び集まり、それぞれのアクション・リサーチの結果について討議するとともに、タイ感染症共同研究センターの訪問やタイ現地の津波の被災地などでのフィールドワークにより、人間の安全保障という問題について理解を深めます。

このようなセミナーを、アジアの翌年はアフリカを対象に行い、三年目はラテンアメリカを対象に行う予定です。こうした新しいかたちの、国や専門分野を完全に横断するセミナーの実践により、問題についての研究を深化させ、教育システムの確立をはかり、効果的なデータベースの構築を進めます。こうした活動に基づいて、人間の安全保障、社会開発、多文化共生コミュニケーター養成、通訳・翻訳学などについて各研究科に提供する教育プログラムの開発を本格化させていきます。

研究面では、9 月に東京で開かれた日本学会議の「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007」や、10 月にバンコクでチュラロンコーン大学が開催した「人間の安全保障を主流化する」という国際シンポジウムに参加したほか、国際協力に関する研究を推進するためのセミナーを次々と開催しています。また、広島大学による平和構築

のための人材育成への協力や、留学生を中心として開かれた日タイ学生科学会議への支援などを行ってきました。

「知のODA」という言葉が使われるようになりました。国際社会に貢献しようとするとき、これまでの経済支援や政治支援とは別に、大学の「知」により貢献することができるということです。グローバルな協力のために、大阪大学の総合的資源はきわめて大きな力になり得ます。これまで国際協力は、多くの部局や組織、あるいは教員個人によって、大阪大学の学内で個別にさまざまに取り組みられてきました。GLOCOLはこれら相互に連絡のなかった組織や教員を、文系・理系にかかわらず有効に連携させるシステムをつくり、新しい研究と教育と実践の場を実現しようとしています。文系の研究科に限らず、理工系や医歯薬系の研究科、附置研究所やセンターの研究者が連携協力して国際貢献できる体制をつく

ること、また一方で、理工系や医歯薬系を含めて全学の活動を支援し全学のどの部局にも役に立つようなセンターにしていくことが重要であると考えています。

より望ましい世界のためにグローバルなコラボレーションを進めていくことがGLOCOLの最終的な目標です。紛争や対立を完全に消滅させ貧困を完全になくし環境を理想的に保つことは、世界からあらゆる疾病や災害や事故を完全に消滅させるのと同じくらい不可能であるかもしれません。しかし現在より望ましい状況をもたらすために、不断の努力を現実に即したかたちで続けることは何よりも重要です。そのためにグローバルな協力が必要です。

大阪大学グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)についてより詳しくは、ホームページ(<http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/>)に情報があります。

